

宇田道隆博士の直筆原稿「流れに漂ういのち」の紹介

野村 学

寅彦先生の系譜に連なる海洋学者・宇田道隆博士の直筆原稿を古書店から手に入れたので紹介したい。NHK ラジオ番組『お休み前に』のために書かれた原稿である。「流れに漂ういのち」という随筆で昭和 27 年 6 月に放送（朗読）されたようだ。

先日の講演会で宮会長も「海」をキーワードで紹介しておられたが（講演「寺田寅彦と坂本龍馬」・宮英司会長・令和 4 年 4 月 24 日）、宇田道隆博士は寅彦先生に大きな影響を受けた高知出身の海洋物理学者である。寺田寅彦記念館の北を流れる小川沿い、「わずか 3 丁ばかり」上流に生家があった。宇田先生によると、この生家の東隣に、小説「花物語 四凌霄花」のモデルとなった「中学の先生」の家があったそうだ。

改めて『高知県人名事典』から引用すると、
「宇田 道隆（1905～1982）水産海洋学者、随筆家 明治 38 年 1 月 13 日、土佐郡小高坂村（高知市）に（略）生まれる。大正 13（1924）年県立高知城東中学校（追手前高校）4 年終了後、第二高等学校を経て昭和 2（1927）年東京帝国大学理学部物理学科を卒業。その間、寺田寅彦、藤原咲平教授から多大の影響を受ける。同年、水産講習所勤務、14 年「海洋の潮目の研究」で理学博士となる。（略）」

随筆の内容（400 字詰め原稿用紙 4 枚、横書き、約 1500 字）。

4 月 20 日の日曜日。幼い子どもたちのオタマジャクシ採集に同行し、散歩がてら九品仏の池までやってきた宇田先生。池に流れ込む小川のへりに寄せるオタマジャクシの群れを眺めるうち、先生の研究フィールドである海、「大海を流れ動く生物の姿」に連想を拡げる。小さな出来事からスケールの大きな現象へと思考をすすめるあり方など、寅彦先生の「茶碗の湯」を彷彿させる。一方、過去の海洋調査の様子を回想する場面で、色とりどりのプランクトンや稚魚、イワシ、アジ、サンマ、トビ、カニ…などなど、「動物学者の天国」とよばれる「潮目の縁に寄りつどう」おびただしい種類、量の海洋生物を描写するところなどは、海洋学者・宇田道隆の面目躍如の感がある。やがて想像はこの小さな生き物たちの未来に及ぶ。「海流に押し出されて餌もない沖の住みにくい所へ運ばれて野垂れ死にする稚魚たちは哀れである」、「あのたくさんのオタマジャクシで蛙になれるのはどのくらいあるだろう」。水産海洋学者らしく「むしろ人間が世話をして育て殖やしてやる必要のあるものもある」という言葉も見られる。オタマジャクシや無数の稚魚の行く末に思いを馳せたの

ち、最後に、宇田先生は「小さい古池にも大海原にも通ずる一貫した法則のあることに思ひ当る」。その法則とは「万物は流転する」。小さな我が子とオタマジャクシや潮目の稚魚たち。小川の流れと大海原の海流。九品仏という仏教世界を背景として、斎藤茂吉の歌も織り交ぜながら「流れに漂ういのち」の流転を短い文章でまとめた作品である。

おだやかな春の一日を描き、読むものにしずかな余韻を与え、その人柄をも偲ばせる、一方で、宇田博士には、陸軍に徴用され船舶司令部として配属された広島で原子爆弾に遭ったこと、そして当時中央气象台長であった藤原咲平の命により、原爆による特異現象「黒い雨」の調査を行うという、およそ九品仏の世界からはかけ離れた凄惨な体験があることを忘れてはならない。自然災害と戦争という違いはあるけれど、この点において、未曾有の被害をもたらした関東大震災に遭遇し「世界にも類を見ない激烈な」火災旋風を調査した寅彦先生とその人生が重なる。随筆に描かれる宇田先生の小さな生き物たちに寄せる思いは、先生のその想像を絶する経験を知るとき、私たちの胸に強く迫る。

広島に黒い雨が降ってから7年後。サンフランシスコ講和条約が発効し日本は主権を回復する。この散歩の日からわずかに8日後のことである。そして更に一年後。GHQにより発表が禁止されていた宇田先生等の調査結果が『原子爆弾災害調査報告集』として刊行される。“流転”する歴史の中で、春の九品仏池で遊ぶ子どもたちやオタマジャクシの姿に、宇田先生は、この平和が続くことを心の底から願ったことだろう。(終)

※本草稿を活字に起こし全文を掲載したかったのですが著作権の関係で断念しました。「流れに漂ういのち」は宇田先生の海洋随筆集『海の歳時記』（昭和31年11月・法政大学出版社）に収められています。

〈参考文献〉

1. 『海の歳時記』所収「流れに漂ういのち」（宇田道隆・法政大学出版社・昭和31年11月）
2. 『寺田寅彦』（宇田道隆・弘文堂・昭和23年7月）
3. 『世界伝記文庫 寺田寅彦』（宇田道隆・国土社・1977年3月）
4. 『高知県人名事典 新版』（「高知県人名事典 新版」刊行委員会・(株)高知新聞企業・1999年9月）
5. 『空白の天気図』（柳田邦男・文春文庫・2011年9月）
6. 『原子爆弾災害調査報告集』所収「気象関係の広島原子爆弾被害調査報告」（宇田道隆他・日本学術振興会・昭和28年）

7. 『関東大震災』（吉村昭・文春文庫・2012年2月）
8. 『SCIENTIFIC PAPERS VOL. VI（邦文篇）1905-1935』所収「大正12年9月1日2日の旋風について」（寺田寅彦・岩波書店・1985年12月）
9. 「東京海洋大学附属図書館ホームページ」に宇田博士の生家の写真が掲載されています。
 〈東京海洋大学附属図書館トップページ〉⇒〈コレクション〉⇒〈宇田道隆文庫〉⇒
 〈写真〉⇒〈写真51「宇田博士の生家」（1964年）〉
10. 「九品佛の池」とは宇田先生が当時住んでいた東京都世田谷区奥沢の自宅のすぐ近くに
 あった人工の池。

